

Vol. 93

仙台市泉区紫山1-2-1
 幼稚園:(022)777-6777
 小学校:(022)777-3777
 中・高校:(022)777-5777

平成30年
3月1日発行

あなたがたは地の塩、世の光である。
あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。
(マタイ 5.13-16)

仙台白百合学園

高等学校

❀ Sendai Shirayuri vol.93



祝 卒業に寄せる言葉



祈りを信じて

小学校・中学・高等学校 校長

渡辺 瑞穂



ご卒業おめでとうございます。一人ひとりの胸に「白百合ライต์」が刻まれていることを信じて、何より、自身を誇りに思い、そして、支えてくれた全ての人への感謝をもって巣立ちの日の喜びを感じてほしいです。

六年生の皆さん、「七つの約束」覚えていますか。丁寧に心をこめて、「整える毎日」が自分を成長させるベースとなることを信じて続けて下さい。

中学三年生の皆さん、思春期真っ只中であって、揺れる心を持てあまし気味の人も多いかもしれません。大いに悩み、そして、自ずと定まってくる大人の自分を楽しみに次のステップに。

高校三年生、そしてエнкаレッジコース卒業生の皆さん、大人になるま

卒業を迎えて

卒業生の言葉

感謝のうちに

高校三年生 佐々木 綾音



紺と白のコントラストが美しい、新品の制服を着て初めて登校したあの日から数年の月日が経ち、ついに卒業を迎えました。青春を過ごした、大好きなこの学園を離れることはとても寂しいですが、素晴らしい思い出を胸に、明るく出発したいと思います。

私たちは、仙台白百合学園でたくさんの愛を受けました。出会った全ての方に、私たちが立派に成長できるように、社会でしっかり生きていけるように、ご指導やサポートをしていただきました。授業や学年を担当なさる先生方の、私たちを思いきり褒め、時には厳しくご指導なさる眼差し、そして、どんなことがあっても必ず手を差し伸べて

くれる家族の支え、つらい瞬間も楽しい瞬間も一緒に過ごした友だちの言葉、これらすべてに、温かさや愛がありました。周囲の方々から本当にたくさんの愛情を受けた私たちは、この先起こるかもしれないあらゆる困難を乗り越えられる気がします。今後は受けてきた優しさを、周囲に与えていける人になれるよう努力いたします。

また、海外研修や生徒会活動、部活動など、やりたいことにどんどん挑戦できたことは、私の人生の宝です。この学園で経験した様々なことを、これからの人生の糧とし、どんなときも神様に感謝して過ごしていきます。私たちを支え、育ててくださった先生方、職員の皆様、家族、友だち、すべての方々から感謝いたします。ありがとうございました。

保護者から

自分史の始まり

卒業生保護者 田代 拓郎

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。仙台白百合学園での学園生活は、どうだったでしょうか？楽しかった事、辛かった事、沢山あったと思

います。特にこの学年の皆様は、東日本大震災が起こってすぐ小学校の最高学年になったと記憶しています。そのような経験をされてきた皆様だからこそ、これからの人生で糧となるものを沢山身につける事が出来ているのではないかと思います。進学される方、就職される方、それぞれの道へと歩んでいかれると思いますが、学園で得た知識や経験は、必ず今後の長い人生で役に立つ事でしょう。これからは自分で自分の未来を切り開いていく番です。失敗を恐れる事なく、果敢に何事にも挑戦していただいて。誰もが皆、最初は初心者なので、失敗してあたりまえだという気持ちを持って頑張ってください。

例えば、学園の門を叩いてからあつという間の十二年間でした。我が娘をここまで立派に成長させていただき、校長先生をはじめ、ご指導いただいた諸先生方、学校職員の皆様方にはただ感謝の言葉しかございません。これまでの温かいご指導、誠に有難うございました。

最後になりましたが、仙台白百合学園の益々の御発展と、卒業生の皆様が、末永く幸せな人生を送られます様祈念いたします。

教職員から

COMMENCEMENT

高校三年生主任 半澤 康至

今日、三月一日、第七〇回高等学校卒業式が行われます。この日、晴れて卒業する生徒は一五七名です。生徒の皆様、ご卒業おめでとうございます。

この三年間を振り返ってみると、あまりにも短く過ぎてしまったように感じるでしょうが、豊かな知識と多くの経験を得たことと思います。高校卒業という人生にとって大きな区切りを迎えたわけですが、もう一度、この三年間を思い起こしてみたい。

英語の辞書で「卒業式」というのを調べてみると、「Commencement」と出ていますが、これは「beginning」（開始の時）という意味もあります。したがって、「卒業」「開始」ということになりま。明日からは、自分の目指す方向にスタートするわけですが、これまでになく多くの問題に出会うことと思います。その時こそ、今まで学園で培ったものを糧として、立ち向かって下さい。逃げず、妥協せず、自主的に切り拓いていってください。

「神はわたしたちの避けどころ、わたしの苦難のとき、必ずそこにいます」と助けてくださる。 （詩編四八）保護者の皆様、ご子女のご卒業、誠におめでとございます。ご子女は、この紫山の学舎を巣立って、さらに大きく成長することでしょう。これまでのご家庭でのご協力に心から感謝申し上げます。

定年を迎えて

心に残る思い出

小学校教諭 渡邊 晶子



高校の恩師齋藤久枝先生のご縁を頂き母校で教員生活をおくることになりました。紫山に移転して初めて訪れた母校は一遍しており驚きでしたが、親御さんと一緒にセラー服で登校する姿は、自分の学生時代と何も変わっていませんでした。母校での再出発と身の引き締まる思いがしたことを、今もはっきり覚えています。公立で教えておりましたが、ミサのしきたりなど中村マスールに丁寧に指導いただきました。熱い先生で楽しいことも色々あり、今も時々懐かし思い出します。

そして、七年前の東日本大震災では、住み慣れた家もアルパムもすべて津波にのみこまれ、その後どうやっていたのか、今となってはよく思い出せませんが、子ども達からのたくさんの手紙や優しい心遣いにはどんなに励まされたかわかりません。一生忘れられません。最後になりますが、昨年の私学振興大会に「ゆりっこ太鼓」で出演させていただき一生懸命練習する子供たちの姿におされ腰の痛みも忘れ太鼓を叩いたことも記憶に残る思い出となりました。修院長先生、校長先生ならびに諸先生に助けていただき、どうにか努めることができました。深く感謝申し上げます。これからも私の大切な仙台白百合学園を応援させていただきます。大変ありがたかったです。

日米豪平和プロジェクト

昨年の12月上旬、私は日本代表として、ハワイで行われた平和式典に参加して参りました。これは、私たち、有志で集まった者が6月下旬から参加している、「日米豪平和プログラム」の一環として行われたものです。このプログラムは戦後75年を記念し、豪海洋博物館により三年計画として企画されたもので、太平洋を取り囲むオーストラリア、アメリカ、日本の中高生が第二次世界大戦時の教訓を元に【平和とは何か】ということについて考え、意見を共有し合いました。ハワイでの一週間はとても刺激的で、今まで自分の中に描いてきた【戦争】に対するイメージが塗り替えられました。というのは、他国の生徒と意見を交換する中で、私は戦争や平和に対する新たな価値観を見出すことができたのです。今回、私たちのメインの式典では【Friendship】というテーマのもと、平和を生み出す手段として、また戦争を引き起こさない手段として、私たち自身が国家間で友好関係を築くことの大切さを再確認しました。とても貴重な体験をさせていただくにあたり、ご協力いただいたすべての方々に感謝いたします。有難うございました。



アヴニール(未来)募金のお知らせ

仙台白百合学園に通う子供たちが未来に向けてより力強く飛躍できることを願いまして、下記のとおり寄付金を募集いたしております。是非、ご理解ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〈使 途〉

●生徒・児童・園児支援資金 ●教育環境整備資金 ●緑化関連事業資金

〈募集要項〉

受付期間：平成30年4月1日～平成30年12月31日

対象金額： 個 人 在校(在園)生保護者 1口1万円 2口以上
卒業生及び学校関係者 1口1万円 1口以上

法 人 特に定めておりません。金額にかかわらずお受けさせていただきます。

※詳細につきましては、本学園ホームページをご覧ください。事務室募金担当にご連絡ください。(TEL022-777-5777)



ちいさいおともだちが
すきだから ほいくえん
のせんせいに なりたい
の。がいこくのひととも
おともだちになりたい
な。
(せお いとは)

おかあさんだいすき。
こんど しょうがくせい
になるの、たのしみだ
な。おともだちをたくさ
ん つくりたい。
(いのうえ たまき)

あかちゃんか うまれ
てうれしいな。おなじパ
スにのって しらゆりよ
うちえんに はいるとい
いな。ケーキやさんにな
るよ。
(やまもと ゆな)

パパむしばをなにして
くれて、ありがとう。い
たくなかったよ。わたし
もパパみたいに はい
しゃさんになりたいで
す。
(やへら い ゆづな)

としよしつから よん
だことのないほんをたく
さんかりてうれしかった
よ。
いっぱいえをかい
て、
がかなりたいな。
(あおやぎ さくら)

年長ぐみにインタビュー！ 「いつも ありがとう」

卒園を控えた年長組さんに、今まで沢山の方々に支えられて
楽しい幼稚園生活を過ごした感謝の気持ちを聞きました！



幼稚園

おとうさん おかあさ
んありがとう。おしごと
がんばってね。ぼくはみ
んなのやくにたつ いろ
いろなものを つくりた
いな。
(ひやま こづき)

ちいさいおともだちが
いてうれしいな。
おおきくなったら こ
まっているひとを たす
けるけいさつかに な
りたい。
(ながね るいこ)

おうちのかたたちに
ありがとう。おいしやさ
んになって びょうきで
くるしんでいるひとを
たすけてあげたいです。
(たかはし とつこ)



かぞくみんな いつも
いっしょにいてくれて
ありがとう。おしごとが
だいすきだから しらゆ
りようちえんで よかつ
たよ。
(たなか きずく)



おとうさんとママがそ
だててくれて うれしい
よ。かぞくみんなで た
のしくいようね。ホワイ
エもたのしかったよ。
(すがわら かなた)

かぞくみんなでするト
ランプがすきだよ。
サッカーでかつために
シュートやドリブルをれ
んしゅうするよ。
(やんこ ひろこ)



ママいつもありがと
う。おてつだいをするか
らね。せかいをまわるひ
とになって かぞくやと
もだちに やさしくした
いな。
(わたなべ こほる)

だいすきなおともだち
がいてくれて ありがと
う。おおきくなったら
ケーキやさんになりた
いな。
(やまだ なほ)

おかあさん ありがと
う。おおきくなったらお
とつさんみたいになりた
い。しょうがつこは
ばんきようをがんばりた
い。
(むらの こづい)



いつも ごはんをつ
くってくれてママありが
と。うんどうかいやせ
いげきがたのしかった
よ。おいしゃさんになる
よ。
(まえひら るしゅ)

おしごとを おしえて
くれて せんせい あり
がと。ジャンボずが
たのしかった。がっこう
では かんじをがんばり
たいです。
(ほし ひこみ)



2018年イベント情報

- 4月21日(土)9:30~11:30園庭開放
 - 5月12日(土)9:30~11:30園庭開放
 - 6月15日(金)9:30~11:00保育見学会
 - 7月 7日(土)9:30~11:30
.....わくわく動物ふれあい(園庭開放)
 - 9月 2日(日)9:30~15:00
.....学園祭(幼稚園でも催し物をしています。)
 - 9月 8日(土)9:30~11:30園庭開放
 - 9月29日(土)9:30~11:30
.....運動会(未就園児のかっこ参加があります。)
 - 10月13日(土)9:30~11:30園庭開放
 - 10月 6日(土)9:30~11:00入園説明会
- ※変更の可能性もありますので事前にお問い合わせください。

●事前にお電話かメールで
お申し込みください。
皆様のご参加をお待ちしています。
TEL022-777-6777 office3@sses.jp

ロンちゃんBlogも
ご覧下さい。

http://kd.sendaishirayuri.net/



発表会

2歳児クラスの日みんなで集まり、発表会をしました。2歳児のお友達は可愛らしい手遊び、年中少児は元気に歌を歌い、最後に年長児がピアノを素敵に演奏しました。アンコールではピアノに合わせて大好きな手遊びをし、とても楽しい時間でした。



特に年齢の低い子ども達は、
このおしごとをする時とても



ています。
意が向くよ
うに作られ
ています。



とを楽しんで
います。



を十分感じ知るようになりま
す。大きい順
に積み上げる
ことができた
ら、四方から
見たり上から
覗いてみたり
します。目で
見て、手で感
じて、おしご
とを楽しんで
います。

桃色の塔(ピンクタワー)は、
桃色に塗られた木製の十個の
立方体からなっています。今年
度卒園する年長児が、卒園記念
品として各クラスに新しい物
を贈って下さいました。大きさを
子どもにわかりやすく感じ
てもらう為に、一番小さい立方
体は、一辺が一センチ。一番大き
い立方体は、一辺が十センチに
なっています。形は同じですが
大きさが一つずつ異なってい
て、大きさ
の差だけに
子どもの注
意が向くよ
うに作られ
ています。



おしごと紹介



もうすぐ
完成です！

四年生／社会科

松森清掃工場見学

グループ発表より

見学して学んだことを元に、「ゴミを減らすために何をすればよいかを考えグループで話し合いをしました。」



私たちのへらしの中から、「ゴミは毎日出ています。調理くずや生ゴミ、スーパーに買い物に行ったときのビニール袋、おかし箱、そしていらなくなったテレビなど……。」「ついた「ゴミ」は、収集日にステーションに出しておくと、「ゴミ」収集車が運んでいってくれます。それで、家の中は「ゴミ」がなくなってます。」「気分もすっきりしますね。でも、みんなの家から出ている「ゴミ」は、一年間に五千万トンにもなるのですよ。なんと、あの大きな東京ドーム約百三十八は十分です。さらに工場などからの「ゴミ」はこの八倍、一年間に四億トンになるのです。これが毎年毎年、はい出されているというわけです。私たちの便利で豊かな生活は、実はこうした大量の「ゴミ」を出して成り立っているのです。

みなさんは3Rを知っていますか。3Rとは「ゴミになる物をへらすこと、くり返し使うこと、しげんにさいり利用すること、つまり、リデュース、リユース、リサイクルの3つです。「ゴミ」をへらすためには、この3Rを実践しなければいけません。もし「ゴミ」になる物をへらすなければ、みなさんが買う物の消費税が上がります。なぜかという「ゴミ」処理場を建てたり、うめたてをしたりしなければならぬからです。そうすると、自然かんきょうまで悪くなります。また、くり返し使わないと、町が「ゴミ」であふれてしまいます。そうすると、世界の平和までみだれてきます。みなさん、3Rをうまく使って、「ゴミ」をへらしましょう。そうすれば、いろいろ



な物のねだんが低くなり、家計も助かります。「3Rをいかして、「ゴミ」減量！」
(麻有七織 明衣、H美央)

みなさん、3Rに協力していますか。3Rに協力すると、消費税アップや地球温暖化をそしめることもできます。協力しないといく、平均のものが、百五十円になってしまい、つらい未来がやって来るかもしれません。それに、「ゴミ」をへらせば、日本の借金をへらすことができます。かもしません。そのためには、みなさんのご協力が必要です。例えば、買い物に行くとき、マイバッグを持参したり、使わなくなったものをリサイクルしたりすればいいです。このまま「ゴミ」がふえると、動物や人間にも悪いえきまうがあるといくことを頭にに入れて、仙台市のリサイクルリつを少しでも上げられるように協力しましょう。二〇二〇年までに、リサイクルリつ三三三パーセント以上になりますように、楽しくリサイクル活動をしましょう。
(はるな、K奈央、さくら、知子)

「杜の都を大切に。」それが私たちのプロジェクト名です。もし杜の都がなくなるとしたら、それは私たち仙台市民のせいです。だから「ゴミ」をへらさなければなりません。そのために私たちは、このような取り組みをします。「ひりょう作り。」
みなさんは、この言葉を聞いたことがありますか。ひりょう作りとは、生「ゴミ」を分けて土にすることです。家のベランダでもできて、作り方はとてもかんたんです。今回は、ダンボールを使った方法をしようかします。
①生「ゴミ」の水気をよく切って段ボールに入れる。
②毎日かきまぜる。そうすることで、「ゴミ」の分がすすむ。注意することは、肉や魚を入れない方がよい。理由は、においがすくなってしまうから。こやうって、生「ゴミ」を土にかえることができます。私たちの自まんの杜の都。仙台の未来は私たちににかかっています。かんたんにできるひりょう作りで、杜の都の自然を守りましょう。
(和暖、七海、垂見)

街頭募金

十二月二日、冷たい風が吹きさぶ中、街頭募金がおこなわれました。ホープ（奉仕委員会）の児童が中心となり、仙台駅近くの水晶聖前、三越前、そして紫山タピオ内三ヶ所で、声をはりあげ募金を呼びかけました。

収益金は、シャルトル聖パウロ修道女会のスールたちが支援活動をおこなう、カメルーンやシエラレオネの子どものために送られます。



クラス対抗 百人一首大会

一月二十六日、第十二回クラス対抗五色百人一首大会の優勝決定戦が行われました。

低学年、中学年、高学年のそれぞれ代表である二年校組、四年校組、六年校組の三クラスによる決定戦です。結果は六年校組が、二年校組と四年校組をくだし優勝しました。

久方の光のどけき 春の日にしづ心なく
花の散るらむ
(紀友則)

卒業の一句

六年桜組

聖堂に ハンドベルの音 響き合う
新雪に 足をとられて 通学路
マリア様 やさしい心 お手本に
バスの中 元氣な声が あふれ出す
つらくても いつもとなりに 友がいた
友あれば どんな場所でも 笑顔あり
白百合の マークを背負い 登校だ
忘れない 笑顔いつばい このクラス
学校に 親切の花 咲きはこる
発表会 みんなの歌声 響き合う
補助バグ 六年過ぎて きずだらけ
加美町で 自然に触れた 思い出よ
教科書の 落書きも今 なつかしき
七分丈 小さくなった 運動着
お祈りを 毎日続け 身を清く
制帽が あつという間に やわらかく
雪の日は ベンチで熊が お出迎え
クラス替え 新しい友 待っている
口ずさむ 六年歌った あの聖歌
ありがとう 心の中で 繰り返す
ほこらしく 制服を着た 六年間
年ごとに 一段上がる 靴箱よ
母の愛 思いのをせる 三つ編みに
思い出す 友と過ごした 毎日を
友達と 笑いあつた 教室で
鐘の音に 時を告げられ 道いそぐ
響く鐘 始まりの音は 別れの音
思い出す 輝くマーク ランドセル
校訓を 心に刻み 歩む日々
小さき手 優しく包み 温める

六年菊組

阿部 幸美 阿部 優菜 阿部 彩夏 尾上聖李華 影山 舞 加藤 結衣 荏部 詩織 川井あかり 川上 心暖 今野 愛理 佐々木 海 佐竹 真衣 須藤 桐加 手倉森もえ 中里真理奈 沼畑 有里 野口 菜桜 服部琉々花 早坂 希海 引地 里嘉 平岡 朱夏 藤巻 陽菜 守 あかり 森 凜々子 山口 流奈 山並 花南 吉谷 洋香 米澤 心美 渡邊 牙 渡辺そ代加
学び舎で 思い出残し 卒業へ
聖堂で 祈りをする声 響きたり
加美町の 夜空見上げて 白鳥座
リレーにて 声援受けて バトンパス
笑顔咲く スマイルライフ つないでく
母からの 愛がこもった お弁当
筆入れの くすみゆく赤 思い出と
聖堂に 響く歌声 美しい
助け合い きずな深めた 修学旅行
ありがとう 友と思ひ出 いつまでも
学び舎で 交わした言葉 忘れない
歌声を 響かせ合つた 音楽室
運動会 大声あげて 盛り上がる
制服の ほつれた糸も 思い出に
いつまでも 友との絆 忘れない
修学旅行 夢の思い出 忘れない
全校で 歌響き合う 聖堂だ
忘れない 思いのこもった 三つ編みを
風受けて 友と語つた ベランダよ
笑い合う みんなの顔に 思い出を
折り鶴は 人の心を 温める
聖堂で 心に響く ベルの音
白組の 旗を振つて 応援だ
三つ編みを 毎日結つた 母の愛
ランドセル 学びのしるし 傷あとに
鐘響く 風の廊下の 休み時間
いつの日も 私を支えた 友の笑い
発表会 家族に伝える 感謝かな
浅野目ももか 浅利結梨奈 阿曾沼姫月 石森 あこ 及川 愛琉 奥田にいな 小野寺 在 加茂 伶奈 熊谷 優花 高田橋来美 今野絢弓美 信夫 夏海 柴崎 莓花 杉山沙也子 鈴木香理奈 鈴木 七虹 鈴木 穂 高橋ひなの 田川 葉奈 竹内 月音 手島 有希 長坂 結 早坂希乃香 福田 妃莉 蒔田 晏奈 馬渡弥々子 谷津凜々子 米城櫻良子

6年間の思い出



3年 学習発表会



2年 スケート教室



1年 はじめての遠足



6年 修学旅行



5年 蔵王林間学校



4年 加美町ふるさと体験合宿



▲ハウステンボスにて記念撮影

今回の研修旅行で訪れた長崎の平和公園、原爆資料館、浦上天主堂などの場所でも愛と平和について深く考えることができました。原爆資料館では八十歳の被爆された方のお話を聞かせていただいているうちに当時の様子が映像として頭に浮かんできました。決して平和と言えない時代でも平和を求め続け、「己の如く人を愛した人々の想いや考えを学びました。自分でも何かできることがあるのではないかと深く考えるきっかけになりました。

また、今こうして自由に生きることができる恵まれた環境にあることも改めて強く感じることができました。

先人たちが求め続けた平和を崩さぬよう、次世代を担う私たちが行動するべきことが見えた四日間となりました。

高校2年 長崎研修旅行 十二月六日～九日

高校2年 高橋 未唯亜

中学校SPタイム ～総合学習～

みことばカルタ

中学二年 高橋 美海



今日、みことばカルタの発表会がありました。クラスごとに三人～四人のグループに分かれてみことばカルタを作りました。私のグループは三人グループでした。作るのはいくつか大変でしたが、二枚作ることができて良かったです。

みことばカルタの発表会で十五のグループのカルタを見て、全部違った感じのカルタだったけど、どのカルタも素敵なカルタばかりでした。また、絵札ではこういう考え方もできるんだなと新たな発見もすることができて、すごくよかったです。

今回、みことばカルタを通して、一つの視点ではなく、いろいろな角度から物事を見るということがとても大事だとわかりました。お互いの意見を大事にして、物事に取り組んでいきたいと思いました。

ディベート大会

中学二年 野村 優希

「ディベート」とは、ある公的な論議に対して異なる立場に分かれ、客観的な証拠資料に基づいて議論をするコミュニケーション形態のことです。今年度は「お金は仕事のためである」というテーマで取り組みました。白黒つけることが出来ないテーマであり、資料を集め立論を練るのにとっても苦労しました。残念ながら、私達のグループは学年大会に出場することは出来ませんでした。出場グループの対戦を見ると私達よりも熱意が感じられ、どれほど真剣なのかということが伝わってきました。審査員の先生の講評では、アンケート資料の信憑性を高めることや、感情的にならずに冷静に議論することが大切だとおっしゃっており、私たちのチームにも当てはま



街頭募金を通して

中学三年 丸山 わかな



私は初めて街頭募金を体験し、人の温かさを改めて感じました。三十分という短い時間で人の足を止めることができるのか、とても不安でした。しかし、目の前を通っていく人に対して、私達が苦しみ人々の力になりたいと本気で思っていることを生懸命呼びかけました。すると、たくさんの方々が足を止めてくださいました。その時の嬉しさは、ずっと忘れな

いと思っています。募金をしてくださる人達の心の優しさを実感し、もっと募金をしたいと強く思いました。街頭募金が終わった後、募金箱を持ったらずいぐ重くなっていて、これは命の重さと同じだと思いました。

街頭募金を通して、普段あまり出さない声量でたくさんの人に呼びかけ、自分達の思っていることをできるだけでなく多くの人に伝えることの大切さを学びました。この経験を生かし、生活に苦しんでいる人を一人でも多く救いたいと思いました。

ポーランドからようこそ ポーランドの日本語学校生徒10名来校

2017.12.8～21

3か月留学生を含めると12名

今回で4回目となるポーランド日本語学校の生徒さん達の受け入れ。(12月8日～21日)3か月留学の2名の生徒さんを含め、12名のポーランド生が、中1から高3までの本校生宅にホームステイをしながら、多くの文化交流の機会を持つことができました。震災を機に始まったこのポーランドとの交流プログラムは本当にたくさんの方々力が結集して、ここまですべて続けているのだ、ということを実感しました。

国際教育部 柴田 瑞枝

～ポーランドの高校の校長先生からのメッセージ～

As the headmaster of Bartomiej Nowodworski Secondary High School in Cracow, I would like to express my gratitude for inviting one of our students to study in your school.

Undoubtedly the stay at your school will be an excellent opportunity for our student to experience new, interesting methods of teaching, learn the history, culture and customs of Japan as well as initiate new friendships. Hopefully, she will also manage to present our school to you, together with Polish history traditions and customs.

Such experience is an invaluable help for a young person on the way to achieving success. I believe that the stay in Japan will be an exceptional opportunity for her to learn about the world and generate beauty and welfare.

ポーランド留学生のホストシスターを終えて

私が受け入れたアドリアンナさんは、昨年3月にポーランドへ友好訪問した時の私のホストシスターです。当時彼女はあまり日本語が話せませんでしたが、僅か9か月の間にとても上達していて難しい日本語や日本の生活様式などを一生懸命理解しようとし、又、未熟な私の英語にも真剣に耳を傾けてくれました。ポーランドの文化や教育、経済などの話から現状の厳しさを知り、国際人として生きる事の難しさも痛感しました。滞在期間が長くなると価値観の違いから戸惑っている場面も見られ、私は日本人としてもっと伝えられる事があったのではと少し後悔もしています。しかし、他の国の文化や歴史に触れ、学ぶという事はその国の言語の本当の意味を理解する事や視野を広げる事に繋がると思います。短い期間ではありましたが、楽しく有意義な時間を過ごす事が出来ました。

高校2年 向井 瑤子



フィリピン・ボランティア・スタディー・ツアー 2018.1.3～13 9回目



セント・ボール・カレッジ・パッシング校のシスター・テレシタ・アガナ校長先生をはじめ、先生方、職員の皆様、生徒とご家族、卒業生の皆様から家族のように迎えられました。参加生徒たちの感想は次の通りです。「ミサの後の歓迎会では大勢の生徒たちがホールにびっしり、一生懸命私達を歓迎してくださり、心が温かくなりました」「アエタやタウィ・タウィ、ファウンデーション・スクールを訪問交流しましたが、貧しくても皆さんが明るく元気で、一緒にいる私たちまで元気になりました」「ホスト・ファミリーは皆さんが優しく、私の拙い英語を一生懸命聞き取ろうとして下さったので楽しく過ごすことができました」「お年寄りのマスール方やマスール見習いの若い方々との交流がとても楽しかったです。私たちは世界をもっと良いものにすることができると、という歌が印象的でした」この他、様々な思いを胸に帰国しました。この交流を生徒たちと共にこれから生かし、発展させていくつもりです。今後ともご支援いただければ幸いです。

引率 スール 吉田 めぐみ

LEコース 1年間留学報告

留学を通して

私は南オーストラリア州、首都アデレードの中にあるSeaview High Schoolに1年間留学していました。私にとってこの留学が初めての海外でしたので、正直不安な気持ちでいっぱいでした。その分、自分にしか感じるものの出来ない様々な違いを見つけ触れあったものは全て新鮮だったことを今でも覚えています。私の現地校にはスペシャルプログラムコースがあり、授業の一環として専門的なことを学ぶコースがありました。私はその中でもテニスを専攻していました。共通の趣味を通して現地や他国の友達が沢山できたこと。沢山の人の支えられてこの留学ができたこと。それは私にとって掛け替えのない経験となり、一生の宝物です。離れてから分かった両親の大切さ、ホストファミリー、友達、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもこの気持ちを忘れずに日々精進していきます。

高校2年 高橋 結衣

保護者の方より

親の心配をよそに、持ち前の明るさと人懐っこさから、すぐに現地になじみ、娘にしかできない娘なりの留学を体験して来た様子です。充実した楽しい留学生活の中で、マイコプラズマ肺炎・インフルエンザと立て続けにかかり、心細さから電話をしてきた日を忘れません。健康の有り難さ、親の有り難さを感じ取ってくれたみたいですね。留学を支えて下さった、すべての皆様にご協力いただき御礼申し上げます。



詩部門

今から、未来へ

もしも過去に戻れたら
どんなに楽しもうか
頭の中のタイムマシンで
私は今も旅している

「あんなことしなければよかった」
「もっと優しくすればよかった」
「他にも良い方法があったのでは」

でも目を開けると、そこは今
私は気付いた「戻れない」と
過去があるから、今があるのだと
もうタイムマシンには乗らない
未来へのジェットコースターに乗ろう
そう心に決めた

中学三年 上郡山 華菜

第十二回 赤十字いのちと献血俳句コンテスト

最優秀賞

おしゃべりの中で小さな蜜柑むく

高校一年 菊地 洗美

「こだま」六十三号より

短歌部門

深い愛数えきれない優しさを我が年数え感謝する夜

中学一年 佐々木 桜音

俳句部門

あまだれにふるへ輝く額紫陽花

中学三年 堀江 悠

八月の夕日が影を伸ばしゆく

中学三年 若松 もも伽

長そでで見上げる花火は雲の中

中学一年 山本 佳乃子

第67回 宮城県高等学校総合体育大会 スキー競技(アルペン) 平成30年1月12日～14日

●ジャイアントスラローム
2位:高橋璃子(1年)
3位:齋藤杏奈(2年)

●スラローム
2位:高橋璃子(1年)
3位:齋藤杏奈(2年)



▲左:齋藤杏奈、右:高橋璃子

女子総合優勝 仙台白百合学園高等学校
全国大会に出場!(岐阜県白川町)

「宮城県高校生地産地消お弁当コンクール」 ～入賞作品商品化～



私たちの作品はウズエスパー
県内28店舗で3月3日～4月4日まで
限定販売されます!!

